北から南から

神戸発 消防職員が作った災害対応ゲーム

兵庫県神戸市消防局

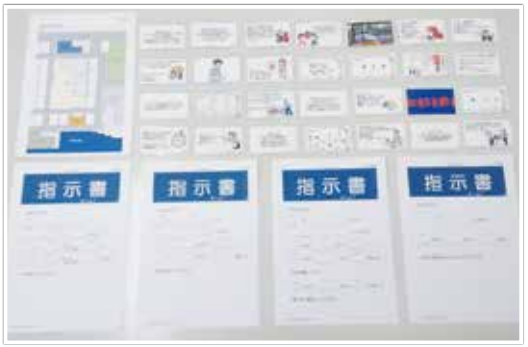
1 目前に迫る震災

歴史的に見ると、南海トラフ地震が発生する30年程前から、大型の直下型地震が頻発しだすそうです。日本列島が地震の活動期に入ったとされる阪神・淡路大震災から二十数年、各地で発生する強い地震は、目前に迫る南海トラフ地震を警告しているかのようです。南海トラフ地震は、複数の大都市を含む広大な範囲に被害を及ぼすことから、他地域からの救援が行き届かない可能性があります。それぞれの地域住民同士の助け合いが不可欠です。

2 災害対応ゲーム「ダイレクトロード」

神戸市消防局では、南海トラフ地震発生直後の１時間を疑似体験しながら、人の命を救うために必要な現実的で具体的な方法や、周りの人たちと助け合うことの大切さを学べる研修教材を作成しています。名称である「ダイレクトロード」は、「一本道」という意味です。「災害時には迷うことなく、自らができることをしてほしい」また、「協力の中に道は開ける」という意味を込めています。ゲーム形式であるためか、子ども向けと勘違いされることがありますが、対象は難易度的にも、実際に災害が起これば中心となって活動することになる、「現役世代の方々」です。

５～７人のグループで行い、複数グループで競争すると、とても盛り上がります。要員として、全体の「進行役」１名と、３グループ以上に実施する場合には、「周りにいる人」役の補助者が数人いれば万全です。



必要なものはこれだけ

「28枚の情報カード１組」「未完成の地図１枚」「指示用紙４枚」と筆記具を用意します。始めに情報カードを、トランプのように参加者に配ります。自分に配られたカードは他の参加者に見せてはならず、書かれてある内容は全て口頭で伝え合うのがルールです。

参加者は瀬戸内海に面した架空の町を舞台に、自分たちが津波から避難し始めるまでの時間内に、各自が持っている情報を駆使して、助けられる命を救わなければなりません。

情報カードには、被害状況や地震前後の町の様子などが書かれてあります。しかし、ほとんどのカードの情報は、他のカードの情報と組み合わせなければ有効な情報にな

らないため、全員が協力し合わなければ絶対にゲームクリアすることはできません。

参加者は錯そうする情報を整理して、どこが誰の家なのか、などの町の位置関係や、「火災」「閉じ込め」「ケガ人」といった被害状況を把握していきます。そして、カードに出てくる「家の中にある物」を使って対処する方法を見つけ、指示書を作って「周りにいる人」に指示を出します。「周りにいる人」は、「何をすればいいか分からずにウロウロしている人」という設定です。「周りにいる人」は、指示書を渡されると質問を返し、参加者が納得できる説明をできなければ受け取りません。内容が間違っていれば、タイムロスとして数分後に返却します。こうして時間内に、４種類の的確な指示を出せればゲームクリアとなります。

3 目の前の命を救えるのは……

津波の有無に関わらず、震災で人が命を落とすのは、災害が同時多発する発生後の数時間がほとんどです。消防などの公共機関がどんなに頑張っても、保有する車両数と職員数以上のことはできません。当然、どこかの災害現場に出動していますが、それが、あなたの地域とは限りません。

津波がすぐに襲来する地域の皆さんは、一目散に高所を目指してください。しかし、津波の心配がない地域や、津波が来るまでに時間のある地域の皆さんには、避難所や高所に直行する前に、できることがあります。（目の前の命を救えるのは、今ここにいる自分たちしかいない）と考えて行動する人によって、救われる命があります。

「ダイレクトロード」の実施に必要なデータはすべて、ホームページに掲載しています。地域でも、職場でも、学校でも、ご自分たちだけで行えます。すでに全国各地から、たくさんのお問い合わせや実施報告をいただいております。

どうぞ、ご自由にお使いください。

ダイレクトロード　ゲーム　検索

ダイレクトロード実施中